

防災キャンプ I (例)

※は防災を含む安全に関する教育に関連する項目

● 日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
9月2日			受付	開 会 式	アイス ブレイク	昼食	説 明	テント・タープ設営			野外炊事		南部せんべい 焼き	ふりか えり	就寝 準備	就 寝
9月3日	野外炊事		テント タープ 撤収		コミュニケー ション ワークショップ		昼食	行 動 計 画 作 成	閉 会 式							

はじめの会(※学級活動)

キャンプネームを決めたり、自己紹介をしたりして緊張をほぐす。質問紙調査①を実施。ポートフォリオの説明をして、意欲付けを行う。

ブリーフィング①(※学級活動)

様々なアイスブレイクを行う。
全員：ビート、ネームリング、フルーツバスケットなど
班ごと：フープリレーなど



図1 フープリレー



図2 ブリーフィング②

ブリーフィング②(※第5学年 社会科)

「防災」「災害」「自助」「共助」の言葉の意味について確認を行う。本事業の内容と趣旨を確認し、活動を通して「自助」「共助」につながる行動ができるようになることが目標であることを確認する。



図3 ソロテント設営



図4 タープ設営

テント・タープ設営(※第5学年及び第6学年家庭科 衣食住の生活)

一人一張、自分が寝るソロテントを自分で設営する。
班の仲間で協力し合って、創意工夫をしながらタープを設営する。
「共助」の意味について体験を通して考える。



図5 夕食づくり



図6 タープで夕食

野外炊事(夕食)(※第5学年及び第6学年家庭科 衣食住の生活)

一人ずつ竈で火を起し、飯ごうでレトルトカレーとレトルトご飯で夕食づくりを行う。(ポリ袋炊飯も可能)

ふりかえり(※第5学年 社会科)

丸かまどの熾火で南部せんべいを作る。
活動の中で自分ができたり、班の中で見られたりした自助・共助の姿を共有。活動での学びと防災のつながりについて考えを深める。



図7 南部せんべい



図8 ふりかえり

野外炊事(朝食)(※第5学年及び第6学年家庭科 衣食住の生活)

共助の日と位置付け、班員全員で食事(焼きそば)作りを行う。
役割分担をしたり、調理状況や他の人の動きを見たりして、自分のできることを考え、行動する。



図9 朝食づくり



図10 テント撤収

テント・タープ撤収(※第5学年及び第6学年家庭科 衣食住の生活)

テント・タープを協力して撤収する。

コミュニケーションワークショップ(※特別の教科 道徳)

共助意識の育成に重要である「コミュニティ」と「多様性」の意識づけをねらって実施する。ただ話すだけでなく、声の大きさや調子、身体の動きなど様々な点を工夫して、自分の思いを表現したり、他者の伝えたいことを読み取ったり、ペアで目を閉じた相手を誘導したりする。



図11 コミュニケーション
ワークショップ



図12 行動計画作り

防災・減災行動計画作り(※第5学年 社会科)

自助・共助について改めて確認し、これから(キャンプⅡまでの1か月間)、日常生活場面で取り組む防災・減災行動計画を決める。

防災キャンプⅡ(例)

※は防災を含む安全に関する教育に関連する項目

● 日程

	9	10	11	12	13	14	15	16
10月2日		受付	発表練習	行動計画実施状況の発表	昼食	避難誘導体験 ～多様性を学ぶ～	おわりの会	

行動計画実施状況の共有(班別)(※第5学年 社会科)

1 か月間で実施した内容や気づいたこと、考えたことを別々の部屋に分かれて班内発表を行う。



図1 班別発表



図2 全体発表

行動計画実施状況の共有(全体会)(※第5学年 社会科)

自分たちの班で出された取組を他の班に伝えることで、自分の取組を改めて振り返る。

様々な取り組みを行ったという発表をお互いに聞くことで、多様な見方や考え方に触れる。

避難誘導の作戦会議(※第5学年 社会科)

「目が見えない」「耳が聞こえない」「足が不自由(車いす)」「高齢者」「妊婦」のうち、どの人を誘導するかをくじ引きで決める。

自分たちの班は、誘導する際にどの経路を通して、どういう工夫をするか、気を付けることなどの作戦会議を行なう。



図3 作戦会議



図4 誘導前の注意点

避難誘導体験(※第5学年 社会科)

班ごとに5つの特性(目が見えない、耳が聞こえない、足が不自由、高齢者、妊婦)の1つがある人役(ボランティア)の誘導を行う。

「①多目的ホールBからつどいの広場へ」、「②つどいの広場から多目的ホールBへ」、の往復の道のりで異なる特性の人の避難誘導を行う。

実施後はそれぞれ誘導されたボランティアが感想を伝え、班の中でふりかえりを実施する。

それぞれの特性の相手のことを思いやり、どういう風に誘導したら安心してもらえるのかを場面ごとに考えつつ、班のメンバーで協力しながら避難誘導を行う。



図5 避難誘導体験



図6 高齢者体験

避難誘導体験後の振り返り(※第5学年 社会科)

班ごとに、避難誘導をしてみて気付いたこと、気を付けるべきことなどについて話し合い、その結果をホワイトボードにまとめ、発表して全体で共有する。

相手に安心してもらえるようにする、自分だけでは難しいときにはできる人を探して頼るなど、相手を理解しようという気持ちや、共助の大切さについての意識を深める。



図7 振り返り



図8 行動計画作り

防災・減災行動計画作り(※第5学年 社会科)

キャンプⅠ・Ⅱで学んだことを受けて、今後、日常生活でできる防災・減災行動を考える。